資料１－２

大鳴門橋架橋記念館（EDDY）改修基本計画（案）

令和８年 11 月

徳島県

目次

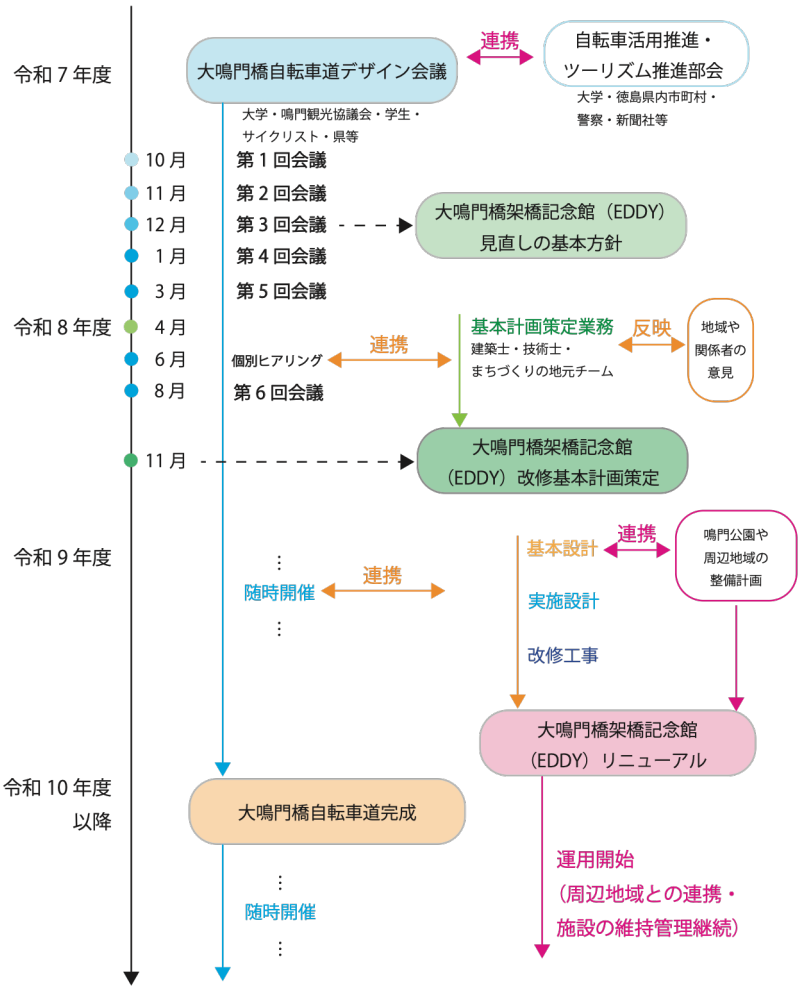
		はじめに	…	1
1		大鳴門橋架橋記念館（EDDY）について	…	2
	1-1	沿革	…	2
	1-2	施設の概要	…	3
	1-3	施設の周辺環境	…	11
	1-4	見直しの方向性や具体的な内容	…	14
2		改修整備内容	…	16
	2-1	改修整備内容の検討	…	16
	2-2	展示の見直し	…	27
	2-3	法令上の検討	…	34
3		本事業がもたらす経済的・社会的効果	…	36
	3-1	経済的効果	…	37
	3-2	社会的効果	…	38
	3-3	想定される課題と対応策	…	39
4		業務実施に係る検討	…	41
	4-1	事業費概算	…	41
	4-2	事業工程	…	42
	4-3	事業手法	…	43
	4-4	本施設改修後の管理運営方針	…	44
		おわりに	…	45

はじめに

大鳴門橋架橋記念館(EDDY)は、開館から 40 年を超え、既存の展示物の老朽化・陳腐化等の課題を抱える一方で、大鳴門橋の桁下空間を活用した自転車道の開通という新たな局面を迎える。こうした背景から、大鳴門橋自転車道デザイン会議において令和 7 年 12 月に「大鳴門橋架橋記念館（EDDY）見直しの方針」が示され、令和 8 年 3 月には「大鳴門橋自転車道を活用したサイクルツーリズム推進基本方針」が策定された。

鳴門公園は自然公園法及び文化財保護法の指定を受ける地域であり、工作物・建築物の新設には制約があることから、既存施設である大鳴門橋架橋記念館（EDDY）の利活用を主眼に、新規自転車需要に対応するための機能拡充を図る方向性が示された。

この基本方針を軸に、大鳴門橋架橋の歴史的意義や鳴門の自然・文化を次世代へ継承するという根幹を維持しつつ、サイクリストや観光客の利便性や魅力を高めるための機能追加を図るよう、施設の再編成が求められている。



大鳴門橋自転車道開通へ向けた大鳴門橋架橋記念館（EDDY）に関係する動き

1 大鳴門橋架橋記念館（EDDY）について

1-1　沿革

大鳴門橋架橋記念館（EDDY）は、1985 年 4 月に開館し、大鳴門橋架橋の意義を後世に伝えるとともに、鳴門公園地区の優れた自然の理解と、あわせて徳島県の自然、歴史、民俗、産業等の紹介を行うため、様々な展示を行う施設である。

1998 年、2018 年には施設の大幅なリニューアルが実施され、デジタル技術を導入した体験型展示を新設された。感覚的に楽しめる「アトラクション展示要素」と学術的な「解説展示要素」の双方を軸に今日まで歩んできた。



大鳴門橋架橋記念館（EDDY）周辺の鳥瞰写真

1-2 施設の概要

●建物の概要及び施設の現状



大鳴門橋架橋記念館（EDDY）の外観

建 物 名：　大鳴門橋架橋記念館（EDDY）
場　　所：　徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦 鳴門公園内
主要用途：　観光施設
敷地面積：　1,973.27 ㎡
地域地区：　用途無指定　国立公園　第 2 種特別地域
建築面積：　1,003.57 ㎡
延床面積：　2,650.55 ㎡
構　　造：　鉄筋コンクリート造
最高高さ：　16.65 m
竣 工 年：　1984 年（2026 年時点で築 42 年）
供用開始：　1985 年（昭和 60 年）4 月
休 館 日：　年中無休
営業時間：　午前 9 時から午後 5 時（入場は午後 4 時 30 分）
GW・お盆は午前 8 時から午後 6 時
夏休みは午前 9 時から午後 6 時

入館料金：

	入館料	渦の道とのセット料金	備考
一般	620 円（490 円）	900 円	団体は 20 名以上で割引 （ ）内料金
中高生	410 円（330 円）	660 円	
小学生	260 円（200 円）	400 円	

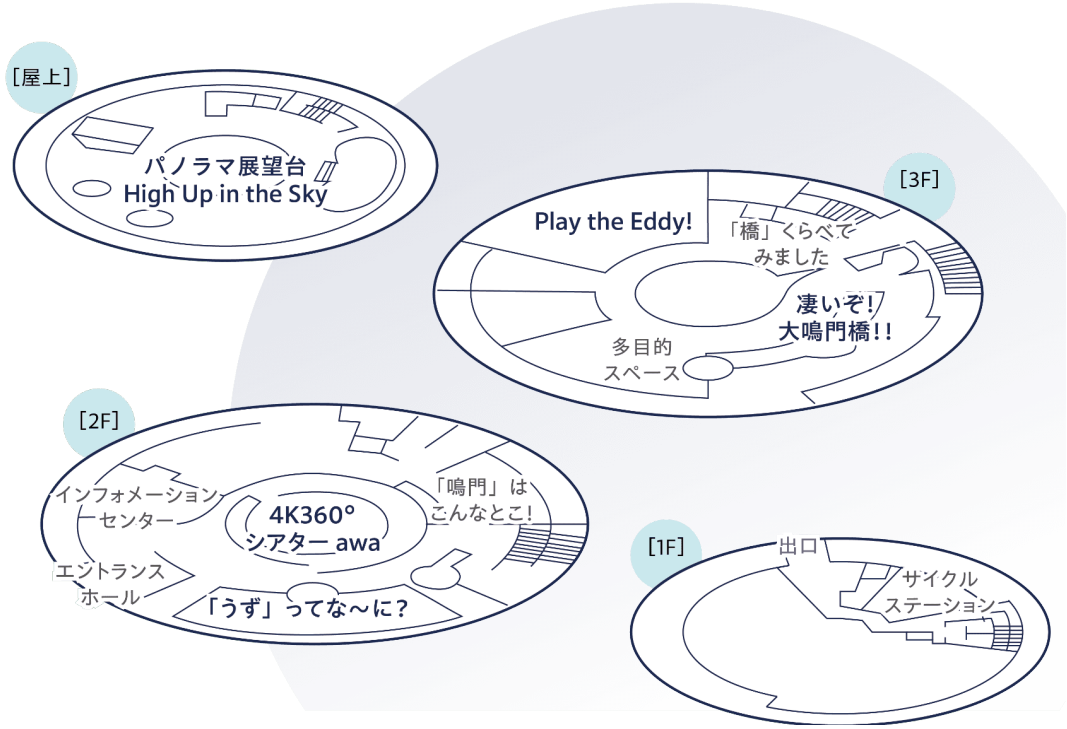
利用者数：　約 9 万人/年（令和 7 年度）

大鳴門橋架橋記念館（EDDY）は、敷地条件や周辺施設（お茶園歩道橋、渦の道）との位置関係に応じた垂直的な回遊動線が形成されている。

多くの観光客は「お茶園歩道橋」を経由して、2 階のエントランスから入場し、有料展示エリアへと進む。2 階フロアでは、「4K360° シアターawa」や「うず」の発生メカニズムに関する解説のほか、鳴門の自然やダイナミズムを体感・学習する構成となっている。

続いて 3 階へと移動し、大鳴門橋の架橋技術・歴史に関する展示や、デジタル体感型コンテンツ「Play the Eddy!」を鑑賞する。さらに上層の屋上部分へ至ることで、大鳴門橋や鳴門海峡を 360 度見渡すことができるパノラマ展望スペースを体感する。屋上および上層階での鑑賞・体験を終えた観光客は 1 階へと降り、周辺観光拠点である「渦の道」方面へと向かう。

1 階部分には設備機械室のほか、地域の会合等に利用される会議室が配置されている。また、旧・情報案内コーナーについては、令和 7 年度に観光・周遊機能を強化した「サイクルステーション」へとリニューアル整備（改修）が行われ、無料の駐輪場・自転車整備および周辺観光情報の提供拠点として運用されている。



大鳴門橋架橋記念館（EDDY）フロアマップ

参照：EDDY 公式ウェブサイト



大鳴門橋架橋記念館（EDDY）の 2 階入り口付近


4K360° シアターawa


鳴門ってこんなところ
（鳴門の森）


「うず」ってな〜に？
（渦のメカニズム（故障中））



凄いぞ！大鳴門橋！
（大鳴門橋のできるまで）

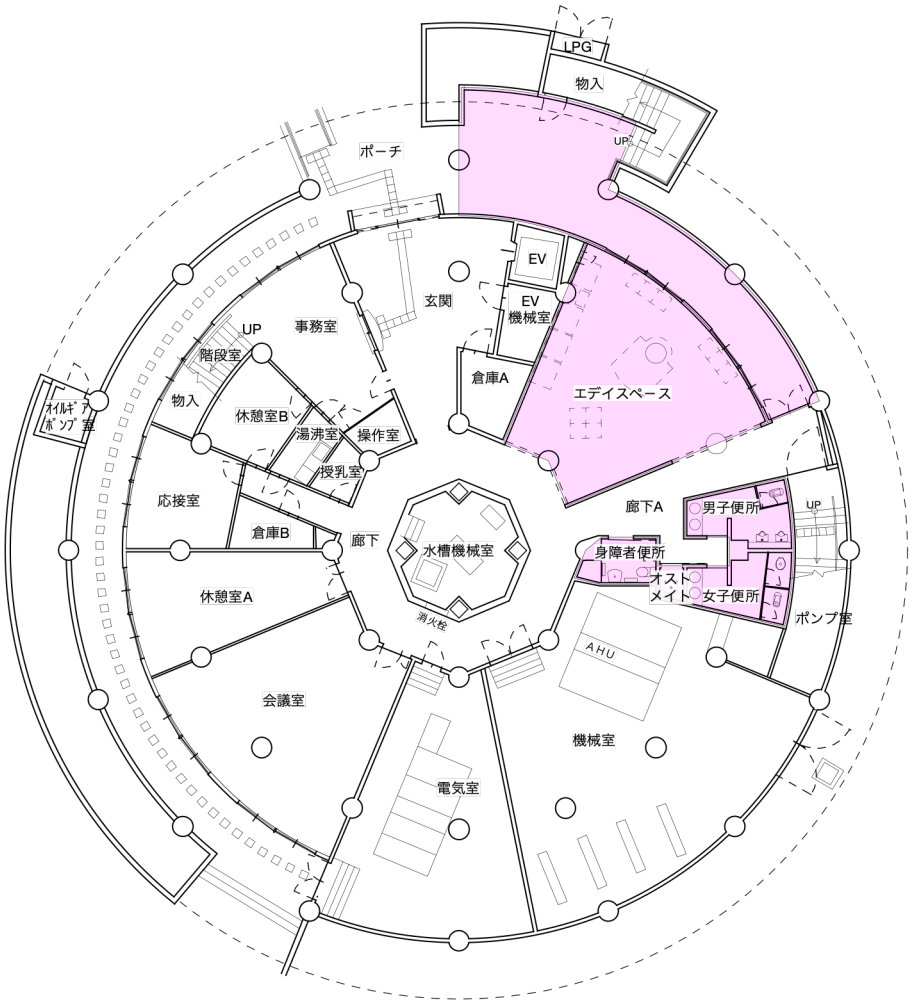

Play the EDDY


パノラマ展望台

参照：EDDY 公式ウェブサイト

既存 1F

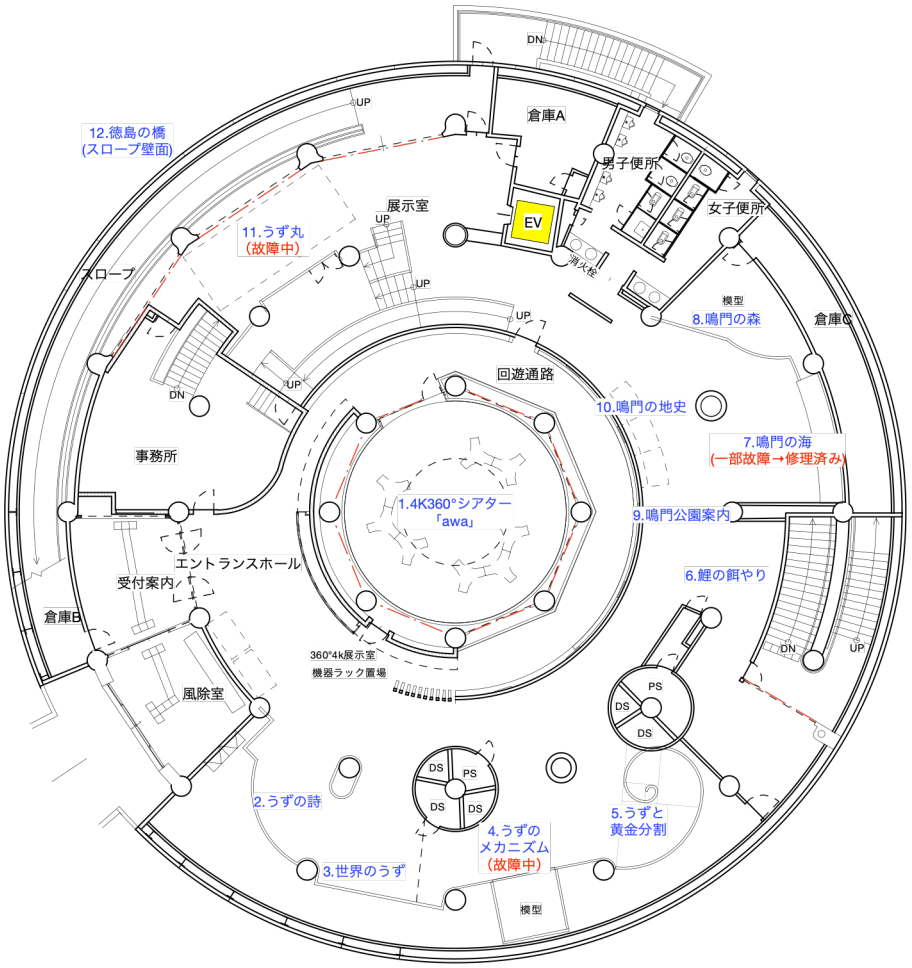
：令和7年度に改修を行なった範囲を示す



1階　平面図

0　5　10m

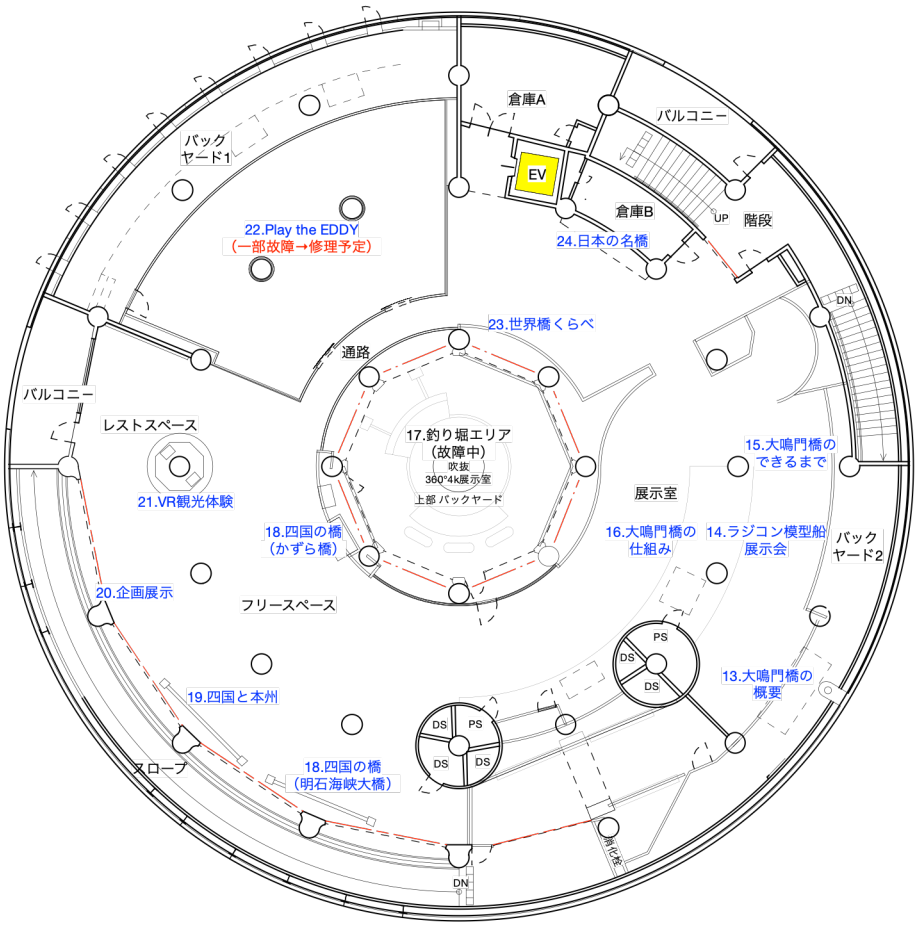
既存 2F



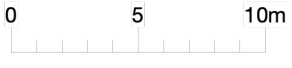
2階　平面図

0　5　10m

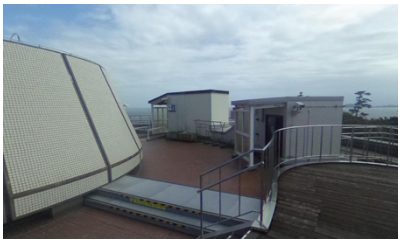
既存 3F


倉庫A
バルコニー
バッグヤード1
EV
倉庫B
UP
階段
22.Play the EDDY
（一部故障→修理予定）
24.日本の名橋
DN
23.世界橋くらべ
通路
バルコニー
レストスペース
17.釣り堀エリア
（故障中）
吹抜
360°4k展示室
上部 バックヤード
15.大鳴門橋の
できるまで
展示室
21.VR観光体験
18.四国の橋
（かずら橋）
16.大鳴門橋の
仕組み
14.ラジコン模型船
展示会
バック
ヤード2
20.企画展示
フリースペース
PS
DS
DS
13.大鳴門橋の
概要
19.四国と本州
DS
PS
DS
DS
スロープ
18.四国の橋
（明石海峡大橋）
DN

3階　平面図


0
5
10m

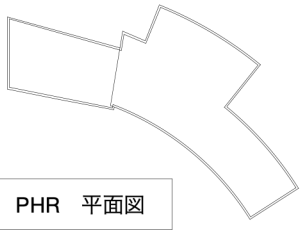
既存 RF



塔屋と設備ダクト



展望デッキと鳴門海峡



PHR　平面図



大塚国際
美術館



RC 立ち上がり部分と
ナウマンゾウの足跡

エスカヒル・鳴門



大鳴門橋と
劣化状況により覆われた地形模型



竣工当時 2 階中央にあった
渦水槽のガラスを再利用したベンチ

0　5　10m

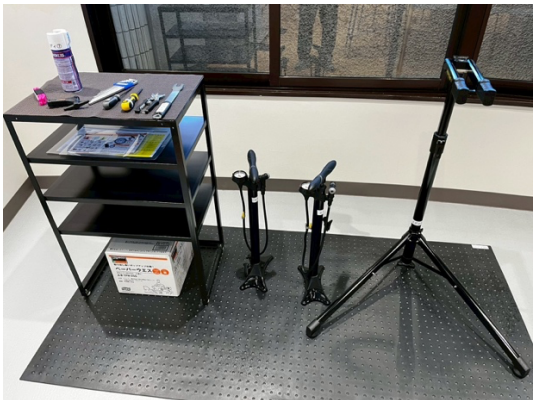
●サイクルステーション整備状況

令和 7 年度事業として、1 階の旧情報案内コーナーを「サイクルステーション」へとリニューアル整備した。屋外の軒下空間には 23 台分の駐輪スペースを設けたほか、屋内には整備用工具を備えたメンテナンススペースを完備している。さらに、設置された大型モニターを通じて、サイクリストが必要とする広域ルート情報や周辺観光コンテンツをタイムリーに提供する体制を整えている。



出入り口に新設された看板


大型モニター付近の様子


整備用工具


チラシ・雑誌ラック付近の様子

参照：自転車王国とくしま公式ウェブサイト

1-3 施設の周辺環境

●大鳴門橋架橋記念館（EDDY）の周辺環境



大鳴門橋架橋記念館（EDDY）は、鳴門公園の敷地内に位置しており、周辺では歩行者の安全性や快適性を重視したウォーカブルな空間形成が求められている。

これに伴い、施設前面道路では一方通行化の措置が講じられているものの、現状では自転車の逆走等が散見されるなど、交通マナーの啓発や安全対策が課題となっている。また、鳴門山トンネルを含む周辺道路においては、時間帯に応じた交通規制や地域住民・事業者への通行許可証の配布などの交通環境の整備が実施されている。



渦の道に向かう歩道ルート



渦の道入り口付近

参照：EDDY 公式ウェブサイト

なお、災害発生時における避難体制として、津波等の影響が想定される事態においては、近隣の大塚国際美術館が指定避難場所として位置づけられており、公園内の利用者や従業員の安全確保に向けた防災連携の強化が進められている。

●大鳴門橋架橋記念館（EDDY）に関係する自転車周遊ルート

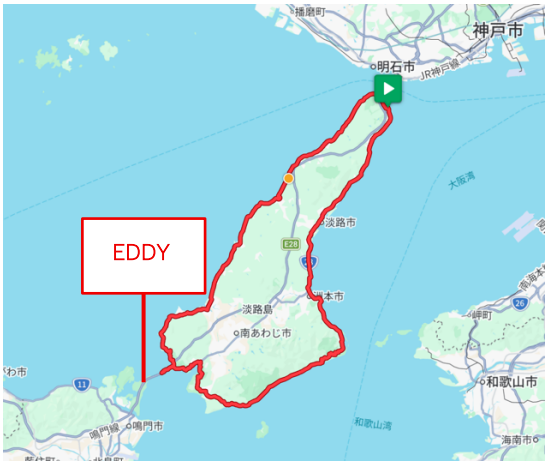


鳴門海峡渦潮コース



鳴門→徳島「走ってみんでー！」
サイクリングコース

周遊ルートとして矢羽根等の路面指示整備が進む「鳴門海峡渦潮コース」や「鳴門→徳島走ってみんで！サイクリングコース」をはじめ、大鳴門橋架橋記念館（EDDY）に関連する自転車周遊ルートが数多く推奨されている。また、サイクリングの基点になるボートレース鳴門「UZU PARK」や渡船などの関連施設・周辺サービスとの連携が不可欠である。



「アワイチ」サイクリングコース

さらに、大鳴門橋自転車道の開通により、淡路島を一周する「アワイチ」と瀬戸内を巡る「セトイチ」や四国一周サイクリング「シコイチ」との接点として、広域サイクリングルートとの連携・展開に対しても大きな期待感が高まっている。

●淡路島の関連施設



自転車道の開通に伴い、自転車利用者および歩行者等による淡路島側への渡島需要の拡大が見込まれる。淡路島内の関連施設との緊密な連携を図り、地域一体となった受入体制を構築することが求められる。（①～③の施設については巻末に別途添付）



①道の駅うずしお



②うずまちテラス



③うずの丘大鳴門橋記念館



④道の駅福良

1-4 見直しの方向性や具体的な内容

●EDDY 見直しの方向性

基礎

現在の施設の目的である大鳴門橋架橋の意義や、鳴門公園地区の優れた自然、及び県の自然、歴史、民族、産業等を後世に引き続き伝える。

機能追加

サイクリスト・観光客にとって
・鳴門公園をはじめ、徳島県を楽しめる場
・快適に過ごせる場
・安全、安心な場
を提供する施設として機能を追加する。

●見直しの具体的な内容

受入環境整備

・新規自転車部門の整備
サイクルステーションとしての機能強化を図り、更衣室や荷物預かり等ができるよう、必要なスペースの確保を行う。
レンタサイクルで自転車道を渡りたい方や、周辺地域の周遊を行いたい方向けに、レンタサイクルサービスを提供するためのスペースを確保する。

・憩いスペースの整備 ※災害時の一時避難スペースとして機能
施設内で快適に時間を過ごし、自由に滞在できる雰囲気や空間を整えた憩いスペースを整備する。また、日中に自転車道が通行止めとなった場合に観光客が一時滞在できる空間としても利用する。

・ユニバーサルデザイン視点での施設整備
インバウンド客や小さな子ども連れの方等に対応できるよう、多言語対応や授乳室の整備等、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた施設の整備を行う。

・既存展示の見直し（存置の可否・展示手法）
既存の展示について、その内容が来館者に対して大鳴門架橋記念館の目的を達成するために有効な展示であるか、見直しを行い、展示を続けるかどうか決定する。たとえ、施設の目的を達成するために必要なものであっても、現在故障中であるなどの理

由により、修繕・補修に相当な金額を要するものについては、費用対効果を考慮した上で、展示を続けるかどうかを決定する。

サイクルステーション施設として、新たな機能強化を図るために必要となるスペースとの兼ね合いにより、展示を含むスペースが不足する場合や、現在行っている展示方法が、その内容を伝えるための効果的な方法でない等の場合は、現在行っている展示の方法を見直し、より効果的・効率的な方法により、展示を行う。

魅力向上

・サイクリスト・観光者への情報発信の強化

サイクリスト、ポタリスト、一般観光客の目線による情報発信の強化を行い、必要な情報の提供を行う。

※サイクリスト向け

・サイクリングに役立つ情報

・次回訪れる際のコースを決めるために必要な情報

■サイクリングルート、休憩場所、グルメ、ビュースポット等

※ポタリスト向け

鳴門公園だけでなく、周辺地域をサイクリングして楽しむために必要となる情報

■周遊ルート、グルメ、ビュースポット、特産品、温泉、渡船の時刻表等

※一般観光客向け

鳴門公園内の観光を楽しんでいただくとともに、県内各地の観光を楽しむために必要となる情報

■県内観光コース、グルメ、アクティビティ、特産品等

・屋上展望の活用

屋上展望の景観を利用したモニュメント等を設置する

・利便性向上

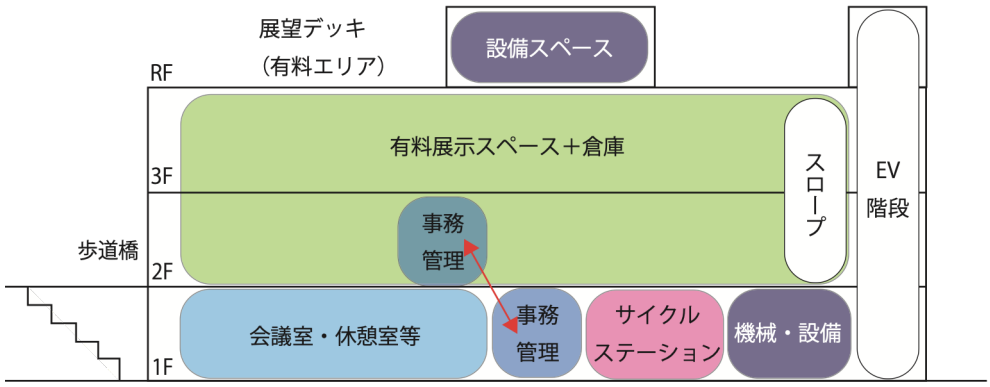
一般観光客の利便性向上や、サイクリストの軽装備であっても利用しやすいよう、キャッシュレス対応の導入を行う。

2 改修整備内容

2-1 改修整備内容の検討

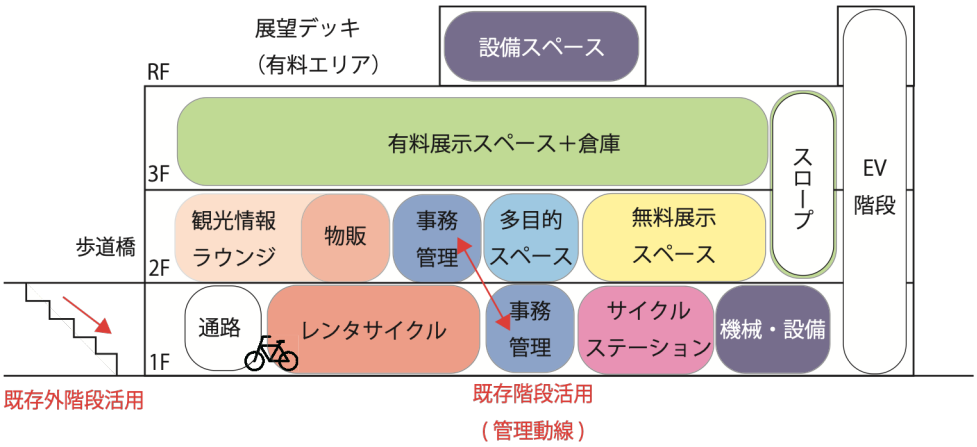
●改修前の断面ゾーニング

大鳴門橋架橋記念館（EDDY）は、現在 2～3 階を有料展示スペース、1 階を会議室や事務室などの管理エリアとして使用している。また、令和 7 年度事業として、1 階の旧情報案内コーナーを「サイクルステーション」へとリニューアル整備している。



●改修後の断面ゾーニング

今回のリニューアルでは、建物全体の役割を「1 階：自転車観光拠点」「2 階：観光情報発信・交流ラウンジおよび無料展示エリア」「3 階：有料展示スペース」「屋上：360 度パノラマ展望エリア」として、階ごとに整理・刷新する。2 階に気軽に立ち寄れる無料展示エリアを設けることで来館者の興味を惹きつけ、上層階の有料展示や屋上展望エリアまで、館内を心地よく巡れる回遊動線を創出する。



●1 階のリニューアル案



1F リニューアル後のイメージパース
（旧水槽機械室の位置から屋外階段方面を見る）

・レンタサイクルスペースの確保と動線の強化

会議室・休憩室等の管理エリアを「レンタサイクルスペース」へと活用できるよう変更する。既存の屋外階段を活用し、歩道橋から 1 階出入り口へスムーズに通り抜けできる動線を確保する。

・見通しの改善とピットスペースの創出

中央の水槽機械室については撤去を検討しており、実現により館内の見通しを向上させる計画である。これにより、リニューアル済みのサイクルステーションの視認性を高めるほか、レンタサイクル利用者が整備や調整を行えるピットスペースとしての活用を見込む。

・既存の管理動線の活用

既存事務所の屋内階段の動線を維持して円滑な施設管理を行うとともに、1 階出入り口付近の窓口を活用することで事前郵送による荷物の預かりなどのサイクリスト向けの新規サービスにも対応しやすい計画とする。

●2 階のリニューアル案



2F リニューアル後のイメージパース 1
（観光情報ラウンジ内の物販ブースの様子）



2F リニューアル後のイメージパース 2
（設置（案）のサイクルシミュレーター周辺の様子）

・観光情報ラウンジ＆物販スペースの設置

従来の有料展示室を改修し、観光客やサイクリストが交流・休憩できるスペースに刷新する。多言語による案内表示や情報発信を導入し、外国人観光客も含めた県内全域の広域周遊を強力にサポートする。

体験型コンテンツとしてサイクルシミュレーターの設置を検討する。

※1 階の自転車拠点の賑わい・雰囲気を感じながら、県内各地の周遊ルートなどを疑似体験できる仕様を予定する。

また、観光情報ラウンジ内に計画予定の個別の物販エリアは既存の設備配管スペースと近接して配置することで、給排水や空調の整備、および将来のレイアウトの変更に柔軟に対応できる計画とする。

・多目的スペースの確保（旧 1 階会議室の代替機能）

通常時：地域の会合場所や、修学旅行生などの観光グループの受け入れ場所として幅広く活用する。

発災時：自転車道の通行止めなどで一時滞留者が発生した際や発災時において、観光情報ラウンジとともに受け入れ場所として活用する。

・無料展示エリアによる 3 階への誘導

既存の「4K360° シアター awa」や、「渦のメカニズム」に関する展示を無料公開し、3 階有料展示エリアへの来場を促す。

・ユニバーサルデザインの推進

授乳室の配置見直しなどユニバーサルデザイン（UD）対応を推進し、国内外の多世代・多様な来訪者をスムーズに受け入れる体制を整える。

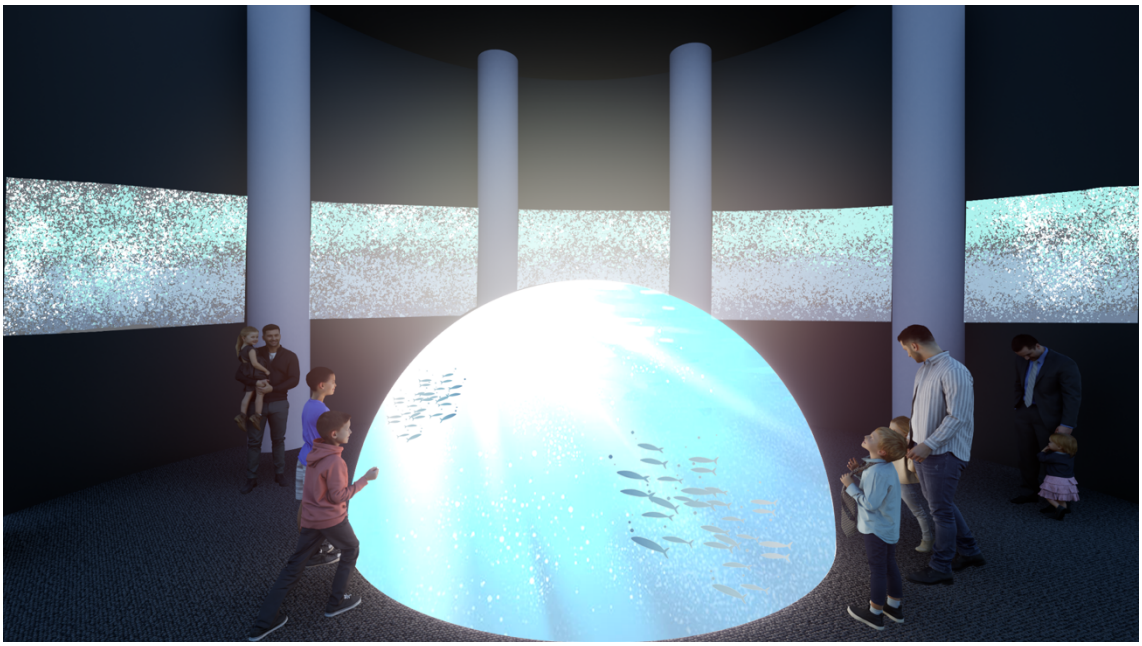
●3 階のリニューアル案

・既存展示の再配置と段階的な更新

当面は既存展示の再配置を中心としつつ、多言語での解説サインや音声案内の充実を図り、幅広い来館者の鑑賞理解を高める。
将来的には維持管理（メンテナンス）が容易で、長期的に有効活用できる展示形態へのリニューアルを目指す。

・建物中央の空間の活用

館内のバックヤードの備品整理を行い、現在倉庫として使用されている建物 3 階中央の空間を展示室として再生することを検討する。
あわせて将来的な構想として、過去に設置されていた「渦水槽」要素と現行の「鳴門の森・海展示（模型・パネル）」を統合した体験型展示の導入も視野に入れる。床埋め込み型の球体展示を配置し、子どもたちが周囲からアプローチして自然の動きを体感できるような、夢のある展示空間づくり目指す。

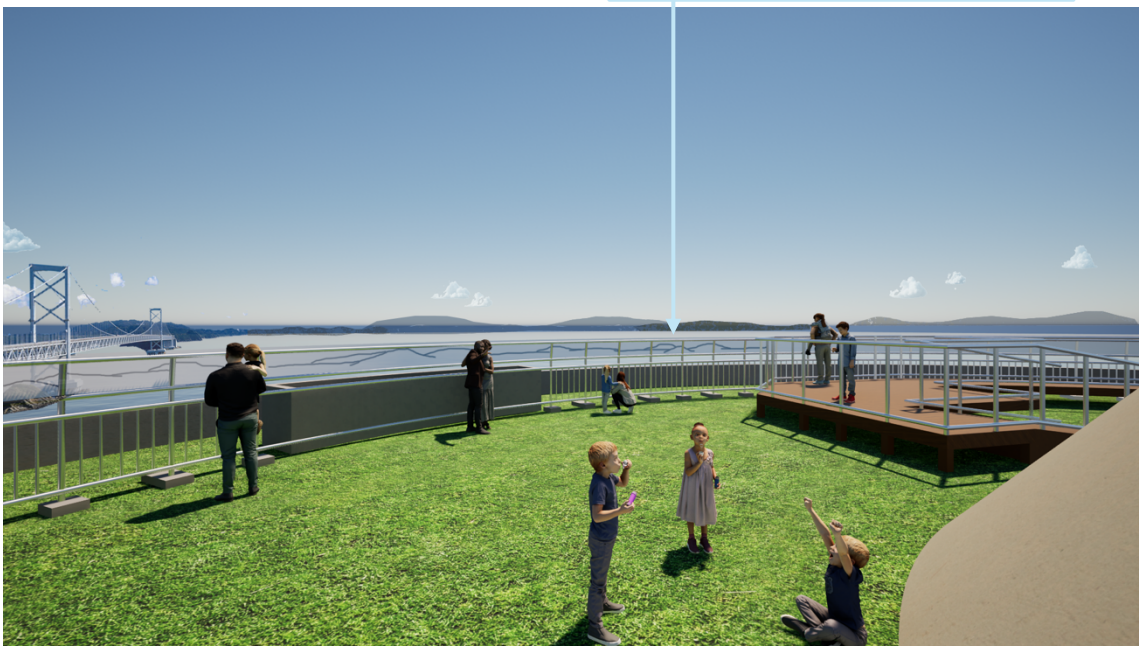


3F リニューアル後のイメージパース
（現在倉庫として使用されている建物中央の円形空間を展示室として再生する例）



かつて 2 階中央に設置されていた渦水槽
（海洋生物模型とともに、海底探索感覚で渦の発生を側面から鑑賞できた）

●R 階のリニューアル案



屋上リニューアル後のイメージパース

・360 度パノラマ眺望の活用と空間刷新

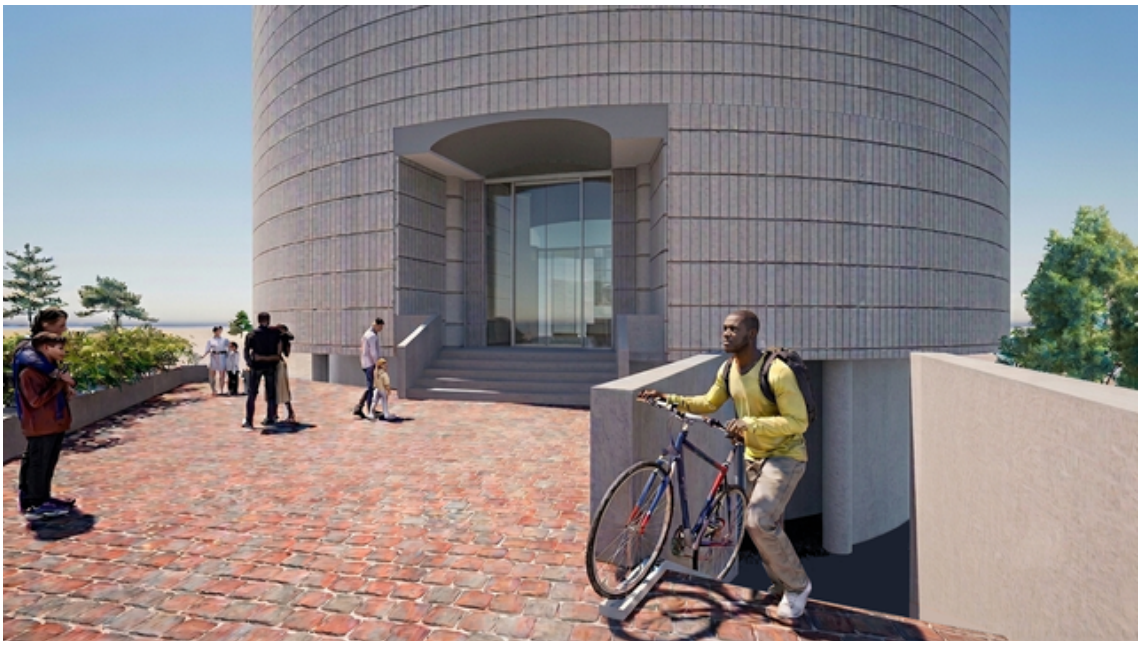
鳴門海峡、大鳴門橋などを一望できる立地特性と円形建築の形状を最大限に活かし、訪れる人々を惹きつける魅力的な空間へと刷新する。

快適な滞留空間の創出：ウッドデッキの刷新や人工芝の敷設により、快適にくつろげる空間を整備。

シンボル性の付与：新たなフォトスポットとなるモニュメントの設置を検討。

周遊型解説展示の設置：円形建物に沿った手すり部分に周辺地域の解説絵図を表現したアクリルパネルを組み込むなど、回遊しながら景観と地域情報を同時に楽しめる工夫を施す。

●改修後の外観イメージ



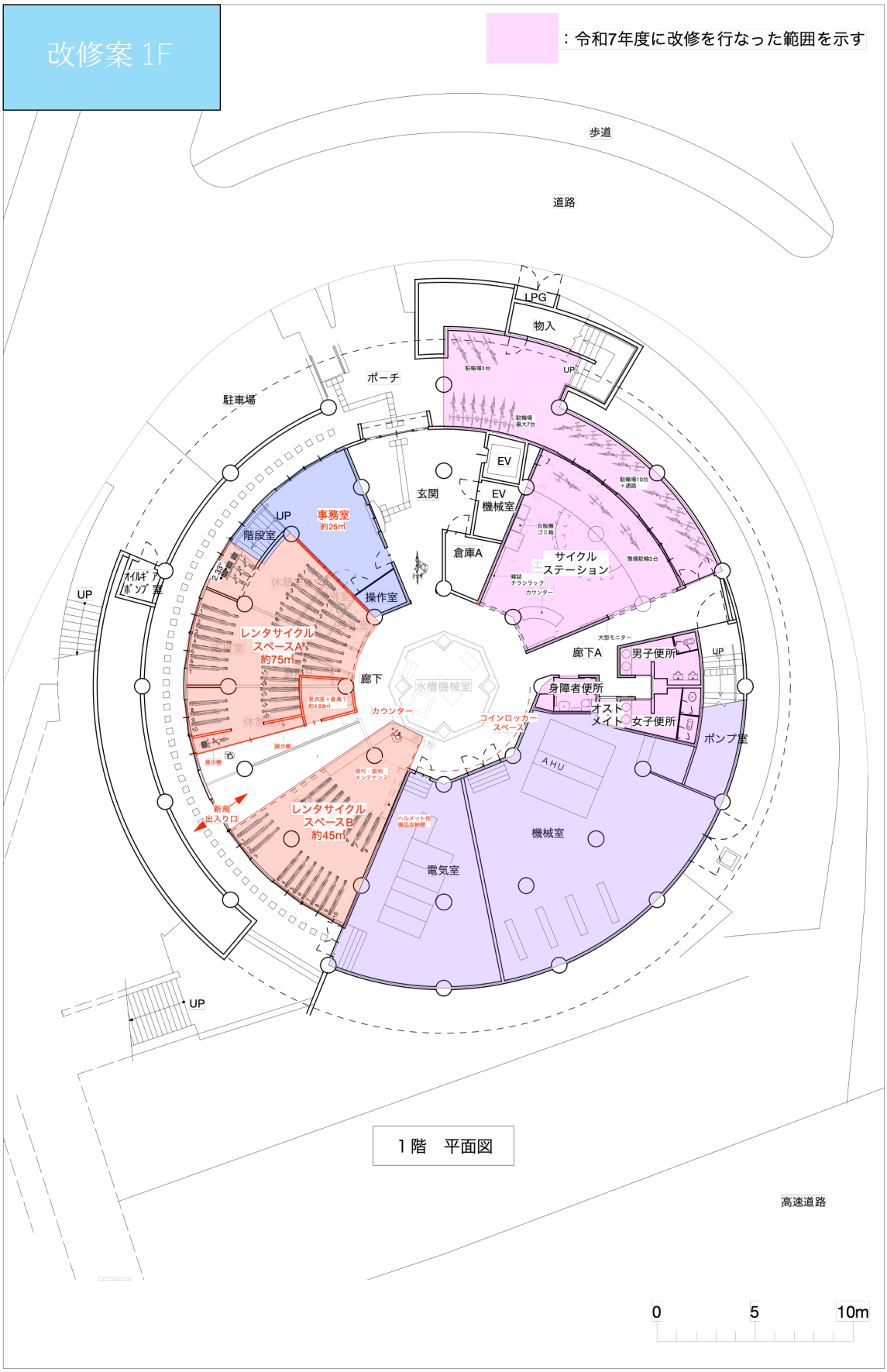
リニューアル後の外観イメージパース
（屋外階段を通じてデッキに自転車を持ち込み可能とする例）

・歩行者の安全確保とサイクリストの利便性向上

サイクルナビゲーション（矢羽根型ピクトグラム）やサインを活用した明確な動線分離（ゾーニング）、施設への誘導を行う。

・施設認知度の向上

どのような施設か一目で分かるようにサインを工夫し、一部緑化するなど人々の興味を惹きつけ、施設の認知度アップを目指す。


改修案 1F
：令和7年度に改修を行なった範囲を示す
歩道
道路
駐車場
ポーチ
LPG
物入
駐輪場3台
UP
駐輪場
最大7台
EV
EV
機械室
玄関
駐輪場10台
＋通路
自販機
ゴミ箱
倉庫A
サイクル
ステーション
発備駐輪3台
雑誌
テラシラック
カウンター
大型モニター
廊下A
男子便所
UP
身障者便所
オスト
メイト
女子便所
ポンプ室
UP
事務室
約25㎡
階段室
操作室
オイルギア
ポンプ室
UP
レンタサイクル
スペースA
約75㎡
廊下
水槽機械室
カウンター
コインロッカー
スペース
更衣室＋倉庫？
約4.88㎡
展示棚
受付・説明
メンテナンス
新規
出入り口
レンタサイクル
スペースB
約45㎡
ヘルメット他
備品収納棚
AHU
機械室
電気室
UP
高速道路
0
5
10m

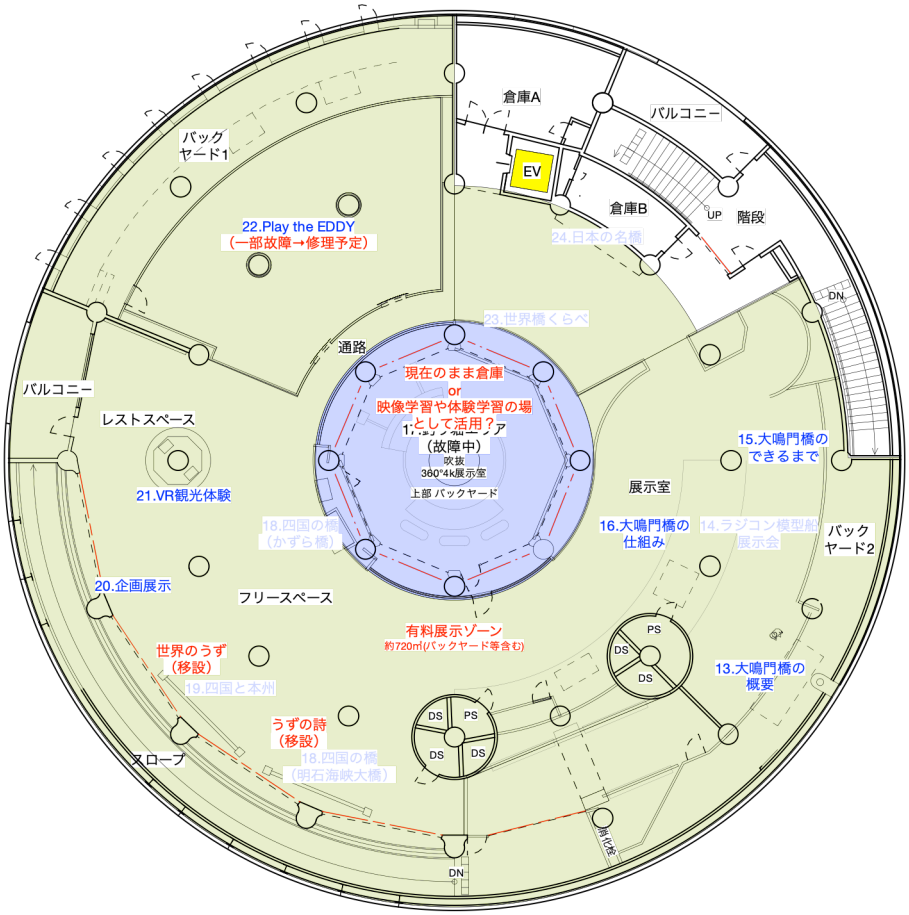
1階　平面図

改修案 2F


2階トイレは
別途改修工事予定
DN
UP
有料観覧
改札機
QRチケット？
倉庫A
＋授乳室？
男子便所
女子便所
EV
管理者の視線が
届くよう計画
渦のメカニズム
リニューアル
無料展示
スペース（新規）
約65㎡
スロープ
小窓新設？
回遊通路
倉庫C
多目的スペース
（旧1階会議室の代替機能）
約60㎡
防災
備蓄倉庫
事務室＋給湯室？
約50㎡
一体的に
管理可能
1.4K360°シアター
「awa」
無料展示
スペース（既存活用）
約150㎡
物販A
約30㎡
営業時間外は
シャッター等で区画
倉庫B
自販機スペース
新規
出入り口
風除室
360°4K展示室
機器ラック置場
観光情報ラウンジ
※災害時一時滞在
約200㎡
PS
DS
コインロッカー
スペース
物販C
約12㎡
物販B
約12㎡
サイクル
シミュレーター
0
5
10m

2階　平面図

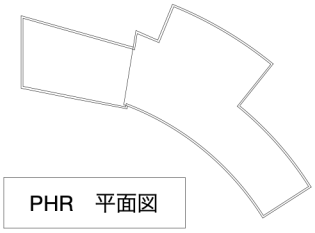
改修案 3F



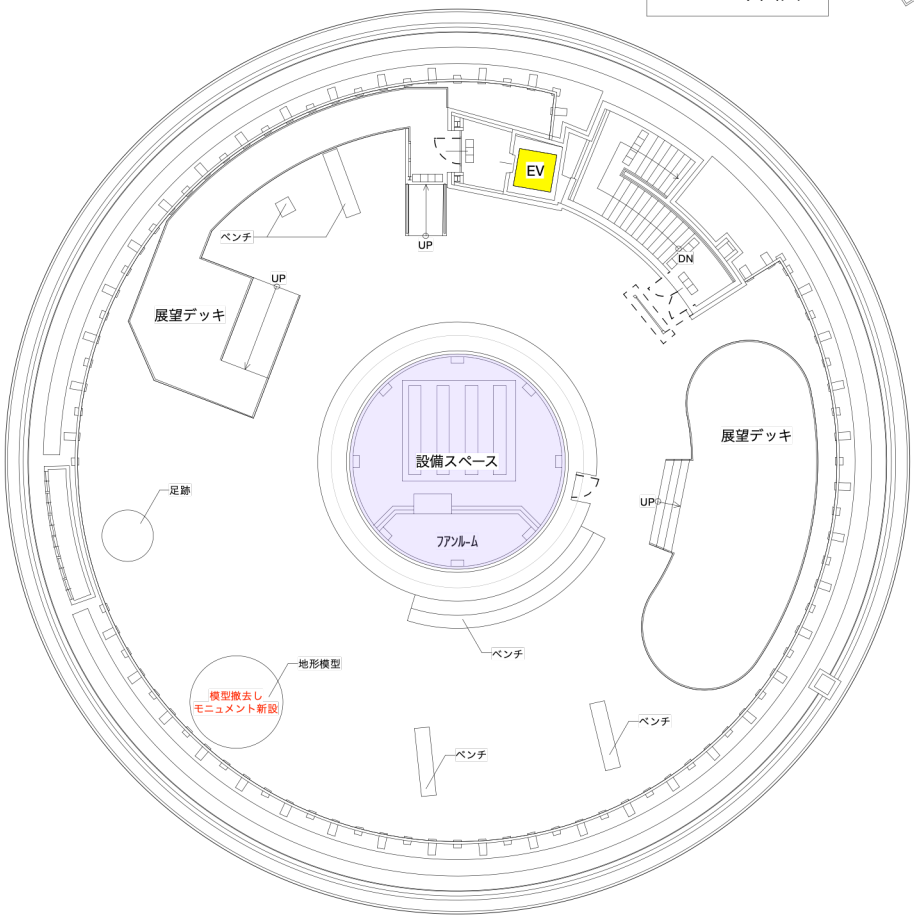
3階　平面図

0　5　10m

改修案 RF



PHR　平面図



屋上階　平面図

0　5　10m

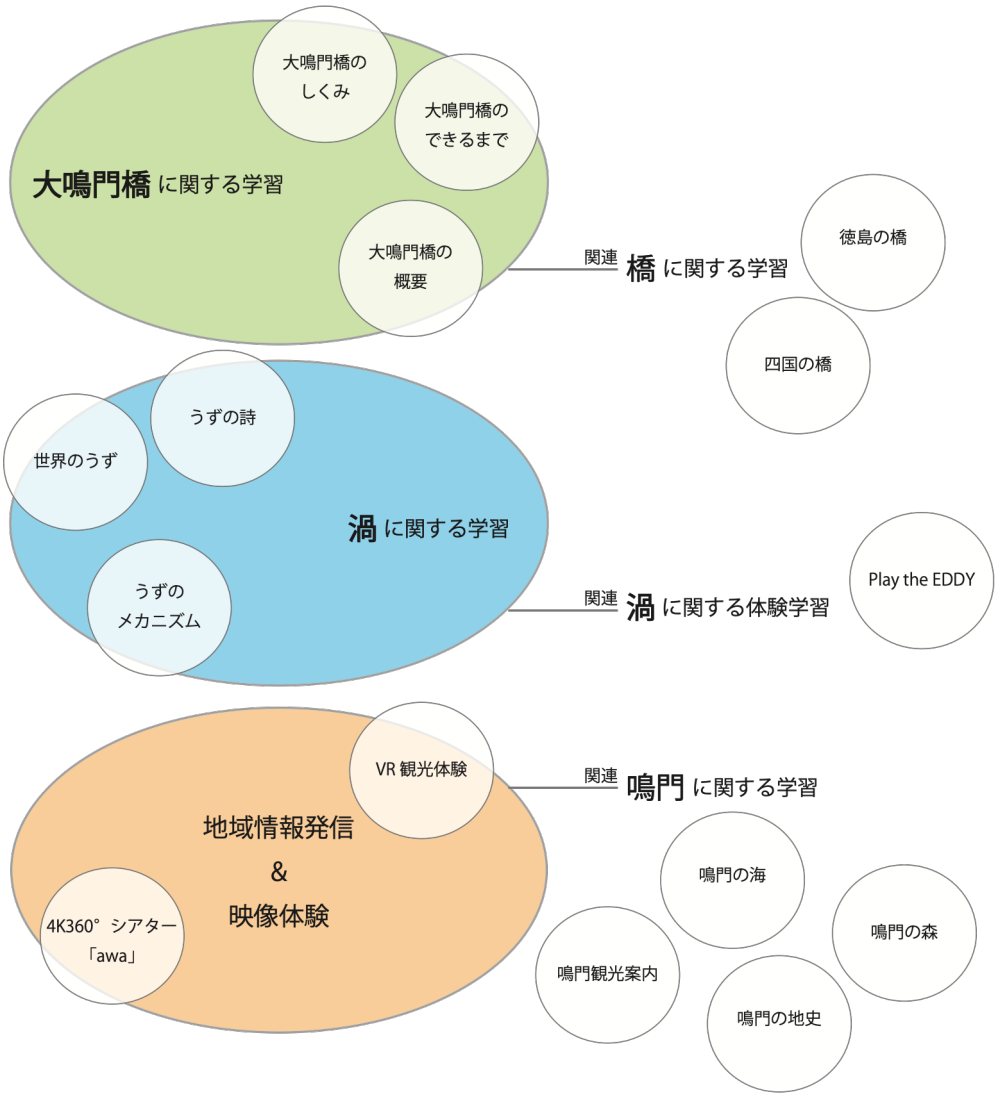
2-2 展示の見直し

・ 展示内容の軸と再配置・撤去の検討

施設の基盤維持のため、「大鳴門橋に関する学習」「渦に関する学習」「地域情報発信＆映像体験」の 3 つを軸に展示品の整理・再配置を行う。

施設の目的との関連性が薄いものや経年劣化が進んだ展示品については、撤去を含めた検討を進める（※第 3 回大鳴門橋自転車道デザイン会議で示された存置優先度をもとに見直しを図っていく）。

展示品の整理・移動にあたっては、適切な養生や保管場所の確保について専門家に適宜確認・相談を行い、展示品の状態維持および丁寧な保全に細心の注意を払う。



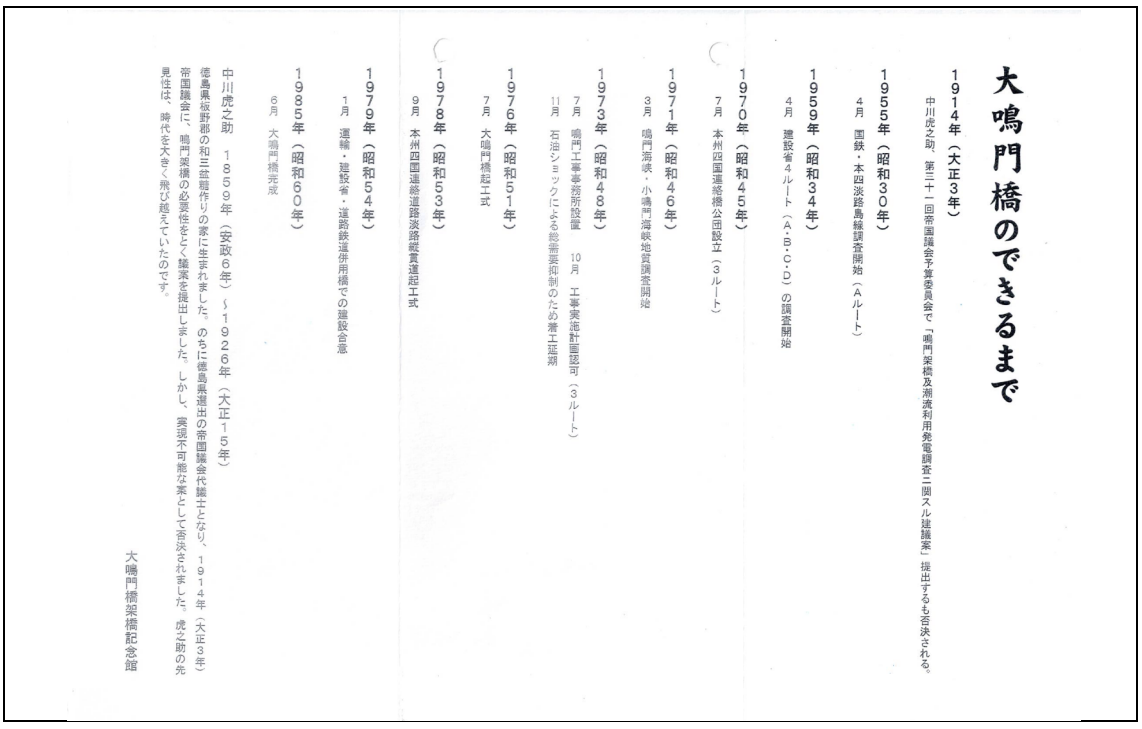
・展示の更新と多言語対応の推進

現在故障中である「うずのメカニズム」展示については先行してリニューアルを実施する。当面は既存展示の再配置を中心としつつ、多言語での解説サインや音声案内を充実させ、国内外の幅広い来館者の鑑賞理解を高める。

・将来的な維持管理を見据えた段階的リニューアル

展示手法については、一括改修に頼らず、維持管理（メンテナンス）が容易で長期的に有効活用できる展示形態へ段階的に更新を図る。

また、現在館内で配布・設置している補足用の紙資料についても、手元でじっくり閲覧できる利点や持ち帰り可能な手軽さ活かしつつ、ペーパーレス化やデジタル端末（QR コード連携等）の活用、より分かりやすいグラフィックパネルへの集約など、利用者の利便性向上と運用コスト削減を両立する持続可能な情報提供のあり方を今後検討していく。



大鳴門橋のできるまで

1914年（大正3年）
中川虎之助 第三十一回帝国議会予算委員会で「鳴門架橋及潮流利用発電調査ニ関スル建議案」提出するも否決される。

1955年（昭和30年）
4月 国鉄・本四淡路島線調査開始（Aルート）

1959年（昭和34年）
4月 建設省4ルート（A・B・C・D）の調査開始

1970年（昭和45年）
7月 本州四国連絡橋公団設立（3ルート）

1971年（昭和46年）
3月 鳴門海峡・小鳴門海峡地質調査開始

1973年（昭和48年）
7月 鳴門工事事務所設置 10月 工事実施計画認可（3ルート）
11月 石油ショックによる総需要抑制のため着工延期

1976年（昭和51年）
7月 大鳴門橋起工式

1978年（昭和53年）
9月 本州四国連絡道路淡路鉄道建設起工式

1979年（昭和54年）
1月 運輸・建設省・道路鉄道併用橋での建設合意

1985年（昭和60年）
6月 大鳴門橋完成

中川虎之助 1859年（安政6年）～1926年（大正15年）
徳島県板野郡の和三盆糖作りの家に生まれました。のちに徳島県選出の帝国議会代議士となり、1914年（大正3年）帝国議会に、鳴門架橋の必要性をとく議案を提出しました。しかし、実現不可能な案として否決されました。虎之助の先見性は、時代を大きく飛び越えていたのです。

大鳴門橋架橋記念館

館内で配布している補足用の紙資料より一部抜粋

○大鳴門橋に関する学習 – 関連：橋に関する学習

13.大鳴門橋の概要



15.大鳴門橋のできるまで



16.大鳴門橋のしくみ



12.徳島の橋



18.四国の橋





○渦に関する学習 – 関連：渦に関する体験学習

2.うずの詩



3.世界の渦



4.うずのメカニズム（故障中）



22.Play the EDDY



○地域情報発信＆映像体験 – 関連：鳴門に関する学習

1. 4K360° シアター「awa」



21.VR 観光体験



7.鳴門の海（一部故障→修理済み）



8.鳴門の森



9.鳴門の観光案内



10.鳴門の地史



○その他、施設の目的との関連性が薄いものや経年劣化が進んだ展示品については、撤去を含めた検討を進める。

5.うずの黄金分割



6.鯉の餌やり



11.うず丸（故障中）



17.釣り堀エリア（故障中）



19.四国と本州



20.企画展示



23.世界の橋くらべ



24.世界の橋くらべ



○第 3 回大鳴門橋自転車道デザイン会議で示された存置優先度

階	番号	名称	分野	優先度（案）	導入年
2階	1	4K360° シアター「awa」	社会・文化	◎	2018 年
	2	うずの詩	文学	○	
	3	世界のうず	地理	○	
	4	うずのメカニズム（故障中）	自然科学	◎	
	5	うずと黄金分割	数学	×	
	6	鯉の餌やり	その他	×	
	7	鳴門の海（一部故障→修理済み）	生物環境	△	
	8	鳴門の森	生物環境	△	
	9	鳴門観光案内	環境	△	
	10	鳴門の地史	地理環境	△	
	11	うず丸（故障中）	社会・環境	×	1998 年
	12	徳島の橋	地理	△	
3階	13	大鳴門橋の概要	—	◎	
	14	ラジコン模型船展示会	産業	×	
	15	大鳴門橋のできるまで	歴史	◎	
	16	大鳴門橋のしくみ	物理・科学	◎	
	17	釣り堀エリア（故障中）	体験	×	1998 年
	18	四国の橋（明石海峡大橋、かずら橋）	地理	△	
	19	四国と本州	歴史	×	
	20	企画展示	—	△	
	21	VR 観光体験	地理	◎	2018 年
	22	Play the EDDY（一部故障→修理予定）	体験	△	2018 年
	23	世界の橋くらべ	地理	×	
	24	日本の名橋	地理	×	

【優先度】

◎	高	展示を継続（展示方法等について検討）
○		展示を継続（展示方法等について検討）
△		展示スペースにより存置を判断
×	低	撤去の方向を含め検討

2-3 法令上の検討

本事業は、既存の大鳴門橋架橋記念館（EDDY）を改修し、広域サイクルツーリズムの拠点や新たな交流・賑わい機能等を導入するものであり、建築基準法に基づく用途変更やバリアフリー対応、防火・避難計画、さらには観光・サイクル拠点としての安全確保など、複数の法令領域にまたがる複合的な検討が必要となる。

そのため、関連する建築・消防・道路等の各種関係法令および徳島県・鳴門市の関連制度や地域計画を横断的に整理・把握しておく必要がある。

以下には、今後基本設計・実施設計および施工検討を進める上で確認すべき主要な法令・条例等を列挙し、本計画において留意・検討すべき項目について整理する。

建築基準法 及び徳島県建築基準法施行細則	○用途変更の確認申請（第 87 条）：飲食スペースの拡充、物販・展示エリアの大幅改修、新たな機能（体験施設等）の追加に伴う床面積や用途の変更に対し、必要に応じて建築確認申請手続きを行う。 ○既存不適格の解消・緩和規定（第 3 条、第 86 条の 7 等）：現行基準（最新の耐震基準や防火・避難規定等）との適合性を検証し、大規模改修時に求められる適法化処理または適用可能な緩和規定の協議を行う。 ○避難・内装・排煙規定： ・階段の有効幅員確保：屋外・屋内階段に自転車押し歩き用のレール（スロープ）を敷設・後付けする際、レール突出部を除いた階段の「有効幅員」が建築基準法上の避難階段規定等を満たすよう計画する。 ・排煙設備の適合（機械排煙等）：2 階ラウンジ化や各階の区画変更・用途変更に伴い必要となる排煙風量の再計算や機械設備の改修・更新範囲について、行政・消防等と事前に協議を行う。 ・避難経路・内装：直通階段までの歩行距離および避難経路の確保、非常用照明の設置、内装制限（防炎処理等）に適合させる。

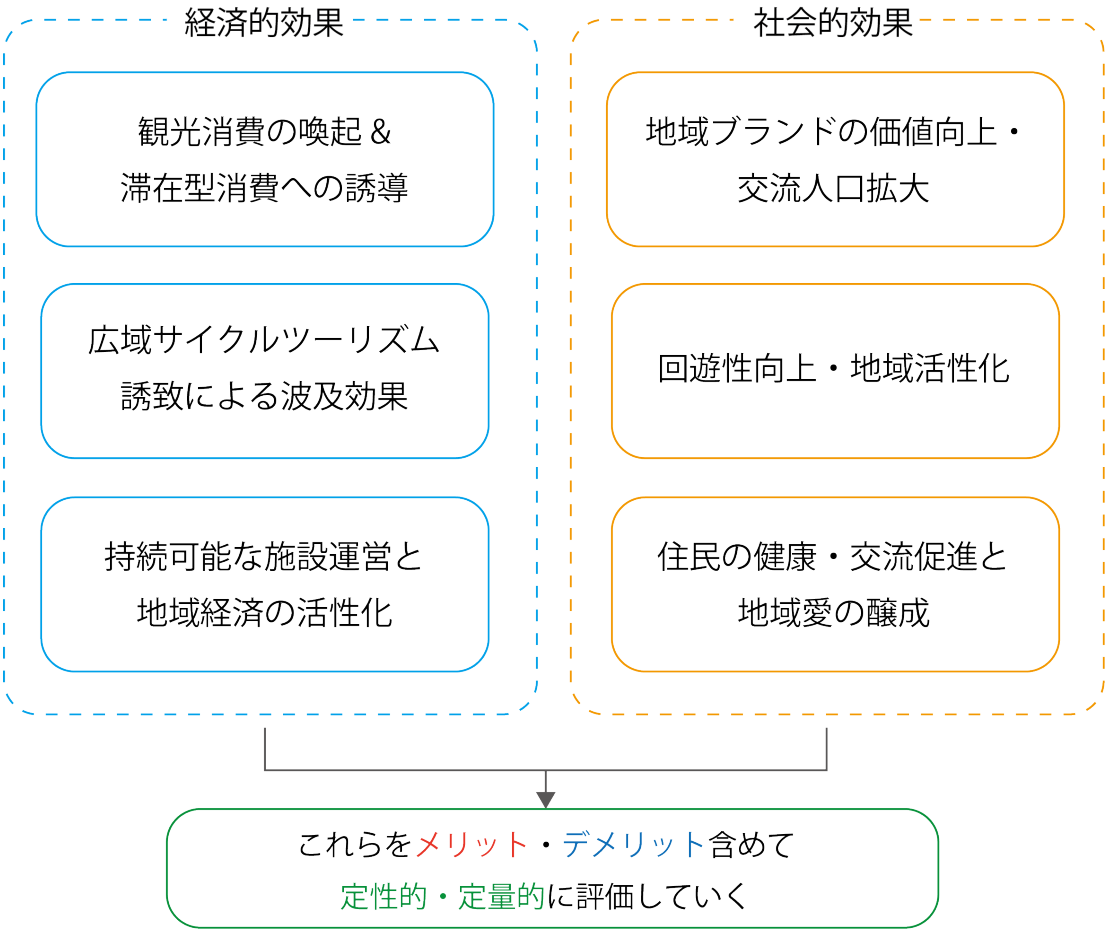
高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー関係）	特別特定建築物（博物館・展示場・飲食施設等）として、エレベーター、多目的トイレ等の設置基準および円滑化誘導基準への適合を図る。

徳島県ユニバーサルデザイン推進条例（バリアフリー関係）	県の指針に準拠したバリアフリー・ユニバーサルデザインを計画に反映する。
消防法	用途変更や区画変更に伴い、自動火災報知設備、スプリンクラー設備、誘導灯、避難器具等の維持・新設・改修について、消防署との事前協議を行う。
自然公園法	外観変更・増改築等の許可申請・届出：屋外デッキ・展望台の改修、外壁・屋上等の意匠変更、屋外サインや案内板の設置・更新を行う際、国立公園の風致・景観維持のための許認可（環境省・徳島県等との協議・申請手続き）を行う。
文化財保護法	外構工事や屋外工作物の設置、地上改修等に伴う現状変更許可申請（文化庁・徳島県・鳴門市との協議）を行う。
徳島県立大鳴門橋架橋記念館の設置及び管理に関する条例	公設施設としての設置目的（利用者の利便向上・地域の観光振興等）を踏まえ、利用許可手続き、利用料金・減免規定、休館日や開館時間の変更手続き等について条例規定に基づき適正に運用・手続を行う。

3 本事業がもたらす経済的・社会的効果

1 階・2 階を中心とした空間再編やサイクルツーリズムの受入体制構築、さらには地域に開かれた無料エリアの設置等を通じ、本施設は新たな運営体制へと移行予定である。 これらのリニューアル施策がもたらす広範な成果について、地域経済への直接・間接的な波及を見込む「経済的効果」と、住民交流や地域愛の醸成等を促す「社会的効果」の双方から整理する。

あわせて、事業の円滑な推進に向けて想定される各種リスク・課題と、それらに対する現段階での対応策についても集約する。



3-1　経済的効果

○ 観光消費の喚起＆滞在型観光への誘導（直接消費）

2 階物販スペースや有料展示、レンタサイクル事業との連携（多様な料金体系やセット券）により、施設単体での直接的な収益向上を図る。

観光情報ラウンジでの発信や体験型コンテンツ（サイクルシミュレーター等）を通じ、通過型観光から滞在型観光へのシフトを促し、地域内での飲食・宿泊・観光消費を拡大させる。

○ 広域サイクルツーリズム誘致による波及効果（間接効果）

観潮船や大塚国際美術館、UZU PARK、渡船、UZS・BUS などの周辺施設・交通機関、および周辺バス路線とのワンウェイ（乗り捨て）連携を含む広域サイクルツーリズムを推進し、鳴門エリア全体の回遊性と利便性を高める。

「鳴門海峡渦潮コース」等の周遊ルートの拠点（ハブ）となることで、サイクリストの立ち寄りを増やし、周辺の店舗・施設へ幅広い経済波及効果をもたらす。

○ 持続可能な施設運営と地域経済の活性化（長期的な波及効果）

新たな収益源の確立とメンテナンス性に配慮した段階的更新により、施設の基盤維持と安定経営を実現する。

広域サイクルツーリズムの定着に伴い、関連産業（観光・交通・飲食・サービス等）の新規投資や雇用創出といった長期的・広域的な経済効果を及ぼす。

3-2 社会的効果

○ 地域ブランドの価値向上・交流人口の拡大

360 度パノラマ展望台の魅力強化（モニュメント等）や展示・案内機能の多言語化により、国内外からの多様な来訪者（インバウンド含む）に対応し、国際的な観光地としての地域ブランド価値を高める。

○ 回遊性向上・地域活性化

1 階・2 階から屋上へと誘う縦動線（断面ゾーニング）の再編と、無料展示スペース等の配置により館内の回遊性を向上させる。

サイクル拠点としての発着機能や、渡船・路線バス等の周辺交通網、隣接観光スポットとの円滑な接続を図り、エリア一体となった周遊の促進と賑わいを創出する。

○ 住民の健康促進・交流促進と地域愛の醸成

・自転車に乗る楽しさの再認識と住民の健康増進

レンタサイクルの気軽な利用やサイクルアクティビティの提案を通じて、日常における「自転車に乗る楽しさ・爽快感」を再認識してもらい、地域住民の運動習慣の定着や健康増進・リフレッシュに寄与する。

・「無料エリア」創出による地域への解放

従来は全館有料であった施設内に、日常的・気軽に利用できる無料の交流ラウンジや多目的スペース、展示プロローグゾーンを設置する。これまで館内に入る機会が少なかった地元住民（特にファミリー層や子供たち）を自然に呼び込み、地域資源（大鳴門橋・渦潮等）の魅力や歴史に日常的に触れられる機会を創出する。

・次世代へ繋ぐ地域愛の育み

地元向け体験イベントや学習企画等の開催を通じ、地域の子供たちが幼少期から鳴門の自然・文化に親しみ、誇りを感じられる体験を提供する。

3-3 想定される課題と対応策

初期投資（イニシャルコスト）および維持管理費の増大

課題：新規モニュメントの設置、デッキ刷新、多言語サイン整備、レンタサイクルの導入・整備等により、初期費用や将来の保守管理費用が発生する。

対応策：3 階展示の段階的更新や既存設備の有効活用により改修費用を抑制するとともに、レンタサイクル事業者との連携（利用料や物販収入）による自律的な収益モデルを確立する。

季節・天候による収益の変動リスク

課題：サイクルツーリズムや屋上展望台は、天候や季節（冬季・台風シーズン等）による利用者数の変動が大きく、閑散期の収益低下が懸念される。

対応策：天候に左右されない 2 階ラウンジや無料展示・サイクルシミュレーター等の屋内コンテンツを充実させるとともに、オフシーズンにおけるサイクリスト向けキャンペーンや地元向けイベント等の企画営業を実施する。

運用コストの増加と現場のオペレーション負担

課題：レンタサイクルの貸出・整備・乗り捨て対応、荷物預かり、多言語問合せ対応など、スタッフに求められる業務が複雑化し、人件費や運営負荷が増加する。

対応策：スマートロックや DX ツール（Web 予約・決済等）の導入による省人化を図るとともに、周辺の事業者やバス会社・渡船業者等との相互連携体制を構築し、運用負荷を分散する。

混雑時の混雑・接触リスク（歩車分離・混在）

課題：1 階において、一般的な観光客の歩行動線とサイクリストの自転車移動動線（ピット・発着）が交錯し、混雑や事故が発生する可能性がある。

対応策：水槽機械室の撤去等により館内の視認性を高めるとともに、サイクルナビゲーション（矢羽根型ピクトグラム）や床面サインを活用した明確な動線分離（ゾーニング）を行う。

有料エリアの入館者数低下リスク

課題：2 階に魅力的なラウンジや無料展示（4K シアター等）を配置することで、満足した来館者が 3 階の有料展示エリアまで上らない可能性がある。

対応策：

・展示構成・誘導動線の工夫（ハード・展示演出）

2 階の無料展示を「3 階有料エリアへのストーリーの導入」として位置付け、上層階への関心を惹きつける見せ方や誘導サイン（縦動線の工夫）を徹底する。

・購買ハードルを下げる運用上の工夫

キャッシュレス決済・デジタルチケットの推進：券売機前の混雑緩和やインバウンド・若い世代の購入ハードルを下げるため、各種キャッシュレス決済（クレジットカード・電子マネー・QR コード等）や事前オンライン発券を導入・強化する。

既存セット販売の継続推進と地域一体での歓迎：現在展開している周辺観光施設（渦の道等）や二次交通機関等との「共通セットチケット」の販売を今後も強力に推進・拡充する。近隣施設や地域全体と連携した割引・優待連携を深めることで、エリア一帯で来訪者を温かく迎え入れる雰囲気を演出し、地域全体での回遊性とあわせた入館インセンティブを高める。

4 業務実施に係る検討

本章では、前章までに検討した各種リニューアル施策・空間再編を円滑かつ確実に実行に移すための具体的な業務実施計画について検討を行う。

事業の実現可能性と実効性を高める観点から、「事業費概算」「事業工程」「事業手法（公民連携等の比較・検証）」「改修後の管理運営方針」の 4 つの軸に基づき、具体的な推進方策および検討結果を整理する。

4-1　事業費概算

現時点での改修案に基づいたものであり、詳細な仕様は考慮されておりませんのであくまで参考値とします。

■事業費概算

	項目	概算金額（税込）	備考
1	基本・実施設計費	¥18,500,000	
2	工事監理費	¥6,500,000	
3	工事費	¥255,000,000	内装改修工事、機械・電気・衛生等設備工事、外構工事等
4	展示リニューアル	¥20,000,000	「渦のメカニズム」・３階中央展示室リニューアル費用等
	合計(税込)	¥300,000,000	

■別途追加費用（想定）

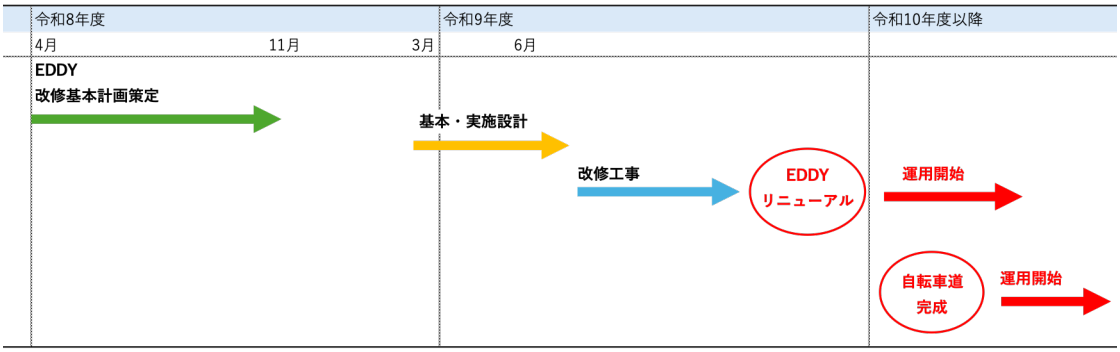
	項目	概算金額（税込）	備考
1	什器・備品費	¥12,000,000	2階観光情報ラウンジ・物販エリアの什器等
2	システム対応費用	¥18,000,000	多言語音声ガイド、解説コンテンツ構築、発券・受付システムの更新等
3	維持管理運営費用	¥10,000,000	初期費用・開設前PR・施工イベント費等

4-2　事業工程

本事業では、大鳴門橋自転車道の完成に合わせた受入体制を完全に構築するため、1階レンタサイクル部門および2階エリアを含めた主要機能の一括整備を基本方針とし、完成時期に合わせた全面開業を目指す事業工程を設定する。

近年の社会情勢や資材・建設コスト等の変動リスク、確定する事業予算の規模に応じた柔軟な工程・仕様計画とする。自転車観光拠点としての核となる「1階レンタサイクル部門」および来訪者の交流・発信拠点となる「2階観光情報ラウンジ・物販エリア」の確実な整備を図る一方で、屋上等の部分的な改修項目については予算規模に応じた施工範囲の調整や最適化を行うことで、予算内での確実な事業完了を目指す。

これにより、大鳴門橋自転車道の完成・運用開始にあわせた受入体制を迅速かつ確実に立ち上げ、新たな収益源と賑わいを早期に創出する。リニューアル後は長期的な施設更新計画に基づき適切な維持管理を継続し、施設の持続的な活用を実現する。



4-3 事業手法

本施設のリニューアルおよび運営においては、施設全体の統括管理と公共機能を担う「指定管理者制度」をベースとしつつ、1 階レンタサイクルや 2 階物販等の収益スペースには民間の意欲を引き出す「民設民営（賃貸等）」を部分導入する手法が最適であると考えられる。

基本スキーム：指定管理者制度（運営委託型）による公営主体運営

○公的な施設役割の確保

施設全体の統括管理、公共性の高い展示・学習エリア（3 階および 2 階一部）、多目的スペースの運用については、従来通り「指定管理者制度」を採用する。

○選定理由

行政としての公共性や安全管理を担保しつつ、民間ノウハウを活用した柔軟な施設運営・イベント企画を可能とするため。

部分導入：民設民営（賃貸・行政財産使用許可）による収益最大化

○個別収益スペースの民間ポテンシャル活用

1 階のレンタサイクルスペースや 2 階の物販・カフェ等の個別スペースについては、民間事業者への貸付（定期借地・賃貸・行政財産の使用許可等）による「民設民営」方式、または独立した事業委託を導入する。

○選定理由

レンタサイクルや物販など、民間のノウハウ・資金力・マーケティング力が直接収益に結びつく分野を分離・独立させることで、事業者の意欲を引き出し、確実な収益化と魅力的なサービス提供を実現するため。

複合型の事業手法とするメリット

○行政の財政負担・リスクの軽減

施設全体を直営するよりも管理委託コストを抑えられ、個別スペースからの賃料収入等による新たな財源確保が見込める。

○民間事業者の参入意欲（インセンティブ）の向上

収益性の高い事業領域（レンタサイクル・物販）を民間事業者が主導できる仕組みとすることで、高品質なサービスの提供と創意工夫を促す。

○段階的・柔軟な事業展開が可能

今後の利用動向やサイクルツーリズムの定着度合いに応じて、将来的なコンセッション方式（運営権付与）への移行など、事業形態のステップアップにも柔軟に対応できる。

4-4 本施設改修後の管理運営方針

①新たな収益の柱（レンタサイクル・物販）

新規収益源の設定

従来の施設利用料に加え、レンタサイクル関連事業および2階の物販事業を新たな収益の柱として位置付ける。

地域特性・距離に応じた料金体系の検討

多様な利用ニーズに応えるため、「しまなみ海道」の車種別料金設定を参考とする。大鳴門橋（自転車道：約2km）という距離特性から短時間利用が多く見込まれるため、「天橋立」のような短時間利用料金（例：2時間定額＋延長料金）や、周辺交通とのセットチケットの導入など、柔軟な価格体系を検討する。

②利用利便性の向上と広域連携（ワンウェイ利用・二次交通）

片道利用（乗り捨て）と公共交通機関との連携

「行きは自転車で渡り、帰りは路線バス等を利用する」といった片道利用（ワンウェイ利用）に対応するため、相互での乗り捨てシステムや周辺バス事業者との連携を検討する。

③地域愛の形成と柔軟な集客施策

地域愛の醸成と地元還元（地域向け施策）

近隣住民や県民が施設に親しみを感じ、地域への誇りや愛着を深められるよう、地元住民を対象とした体験イベントや地域還元型の特別企画等を定期的に実施する。地域住民が家族や友人を連れて何度も訪れたくなるような、地域に根ざした憩いと誇りの拠点づくりを推進する。

基本営業時間の維持と企画営業の実施

営業時間は原則として現行体制を基本としつつ、夜間景観を楽しむ「ナイト営業」や、朝日を楽しみながら走る「早朝サイクリングイベント」など、季節・企画に応じた柔軟な特別営業（時間外対応）を試行的に行い、新たな利用シーンの創出を図る。

おわりに

本基本計画は、大鳴門橋架橋記念館（EDDY）がこれまでに培ってきた歴史と学習・情報発信機能を継承しつつ、広域サイクルツーリズムの拠点および新たな地域交流・賑わいの場へと進化させるためのものである。

今後は本計画を基礎として基本設計・実施設計および工事施工の具体化フェーズへと移行するが、近年の社会情勢や建設市場の動向を的確に見極めながら、着実な事業推進を図っていく。

その過程においては、関係事業者や地域住民等の皆様と丁寧な対話と合意形成を積み重ねることで、施設単体の魅力向上にとどまらず、周辺環境も含めたエリア一体としての価値を高めていく。

本施設が内外の人々を引き寄せる新たな魅力を創出し、地域の誇りと愛着を育みながら、将来にわたり地域社会の発展を牽引する持続可能な拠点となることを目指す。

巻末資料 ： 淡路島のうずしお関連施設

①道の駅うずしお

1991 年（平成 3 年）の開駅以来、日本で最も渦潮に近い道の駅として機能。施設の老朽化に伴い、2023 年 1 月より一時休業し、約 2 年間の全面改修工事を経て、2025 年 10 月 19 日にフルリニューアルオープンを果たす。再整備により、360 度展望デッキの設置やユニバーサルデザインの強化、防災機能の拡充が図られ、淡路島南部の観光振興を牽引する中核施設として再定義された。



道の駅うずしおの外観



自転車押し歩きラインと駐輪場



絶景展望 360°

②うずまちテラス

「道の駅うずしお」の全面建て替えに伴い、2023 年 3 月から 2025 年 9 月までの約 2 年半、仮設店舗として機能した暫定整備エリア。標高の高さを活かした展望機能と、たまねぎをモチーフにした屋外什器による空間演出が特徴。現在は、大型バス等の交通結節点（ハブ）および展望パーキングとしての役割を担い、周辺観光施設の混雑緩和と滞在時間延長を企図した公衆休憩所として運用されている。



うずまちテラスの外観とシャトルバス


たまねぎモチーフのベンチ


テラスとたまねぎモニュメント

③うずの丘鳴門大橋記念館

1985 年（昭和 60 年）の大鳴門橋開通と同年に設立された、淡路島最南端の複合観光拠点。2016 年には「地域活性化」を軸とした大規模リニューアルを実施し、シンボルオブジェ「おっ玉葱」の設置や物産機能の拡充を図る。現在は、地産地消型レストランを核とした食文化の発信に加え、併設する「うずしお科学館」を通じ、鳴門海峡の潮流メカニズムを学術的に解説する教育・啓発機能も併せ持つ。



うずの丘鳴門大橋記念館の外観



シンボルオブジェ「おっ玉葱」



科学館無料展示の一部